

「公立千歳科学技術大学“教職課程”」の足跡

～ 本学から輩出した教師が北海道内の学校で活躍 ～

理工学部 情報システム工学科・教職課程 今井 順一
 理工学部 教職課程 宮嶋 衛次
 事務局 学生支援課長(元) 木村 聡
 理工学部 教職課程(元) 青塚 健一

1 10年目を迎える教職課程(沿革)

平成10年の開学から10年を経た平成20年度より地域等の強い要望もあり、教職課程設置に向けて学内で検討を重ねてきた。平成21年7月、バイオ・マテリアル学科に高等学校教諭一種免許状(理科)、光システム学科に中学校教諭一種免許状(数学)、高等学校教諭一種免許状(数学・情報)、グローバルシステムデザイン学科に中学校教諭一種免許状(数学)、高等学校教諭一種免許状(数学・情報)の課程認定について文部科学省へ申請を行い、平成22年4月入学者より教職課程の履修が可能となった。また、平成27年3月には平成28年4月から情報システム工学科開設に伴い、同学科にて中学校教諭一種免許状(数学)、高等学校教諭一種免許状(数学・情報)の取得を可能とすべく文部科学省へ課程認定申請を行い、平成27年11月に認可された。さらに、応用化学生物学科において中学校教諭一種免許状(理科)の取得に係る課程の開設についても課程認定申請を行い、認可された。

2 取得可能な免許状

本学で取得可能な教育職員免許状は次のとおりである。(2019年4月1日現在)

学部学科	取得可能な免許状
理工学部 応用化学生物学科	中学校教諭一種免許状(理科) 高等学校教諭一種免許状(理科)
理工学部 電子光工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(情報)
理工学部 情報システム工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(情報)

※平成27年4月に総合光科学部バイオ・マテリアル学科を理工学部応用化学生物学科へ、総合光科学部光システム学科を理工学部電子光工学科へ、総合光科学部グローバルシステムデザイン学科を理工学部グローバルシステムデザイン学科へ学部・学科名称の変更をおこなった。また平成28年4月に理工学部情報システム工学科を開設した。

3 教職課程履修者数

下記の資料は、教職課程履修の「第1期生～第6期生(平成30年度卒業)」までの教職課程登録者数である。教職課程履修者が卒業(免許取得)までの推移をたどると、入学から卒業までの4年間で学生数は4割程度まで減少しており、学位取得のための履修の他に、「教職免許取得」まで学習を継続することは至難の努力が必要であることが窺われる。

①平成22年度1期生(1年次25人→4年次11人)	②平成23年度2期生(1年次34人→4年次20人)
③平成24年度3期生(1年次13人→4年次7人)	④平成25年度4期生(1年次15人→4年次8人)
⑤平成26年度5期生(1年次18人→4年次5人)	⑥平成27年度6期生(1年次28人→4年次12人)

(注)資料の4年次の人数は教員免許を取得した学生数

4 免許取得者数の推移

卒業時に教育職員免許状の取得に必要な科目の単位を修得し、所用資格を得た者は、学位記授与式当日に学長より免許状が交付される。免許状は、平成25年度卒業生より交付されており、平成25年度から平成30年度に交付された免許状の種類及び人数は下記の表のとおりである。また、中等教育学校が増加している状況に伴い平成28年度より中学校理科免許状の取得が可能となったことから、教員採用の際、有利な条件となった。

卒業年度	免許取得者					合計	
	実人数	高一種	中一種	高一種	高一種		
		(理科)	(数学)	(数学)	(情報)		
平成25年度卒業生	11	6	1	5	2	14	
平成26年度卒業生	20	9	9	11	4	33	
平成27年度卒業生	7	1	6	6	4	17	
平成28年度卒業生	8	4	3	3	1	11	
平成29年度卒業生	5	1	3	4	2	10	
平成30年度卒業生	12	2	8	8	6	24	
総合計	応用化学生物学科 (旧バイオ・マテリアル学科)	23	23	—	—	—	23
	電子光工学科 (光システム学科)	15	—	11	13	4	28
	グローバルシステムデザイン学科	24	—	19	24	14	57
	科目等履修生	1	—	0	0	1	1
	合計	63	23	30	37	19	109

※理工学部情報システム工学科は、令和元(2019)年度に完成年度を迎え、令和2(2020)年3月に卒業生を輩出する予定であるため、表に記載していない。

5 教員養成の理念

本学の教職課程は、「自ら成長する教員」の養成を行うことを理念として、これまで教員養成に取り組んできた。

学校法人千歳科学技術大学は、光科学技術に重点をおいた教育研究を目指す大学として、平成10年4月に1学部2学科より成る千歳科学技術大学を開設し、「人知還流」「人格陶冶」の建学精神の下に、大学の成果を実社会に還元し、知識と人材のダイナミックな循環を形成すること及び主体的・創造性及び人間性に溢れる人材育成を実践し、平成20年度の総合光科学部への改組及び平成27年度の理工学部への学部名称の変更とそれに伴う学科名称の変更、平成28年度の情報システム工学科の設置を経て、平成31年4月に学校法人が設置する私立大学から、公立大学法人が設置する公立大学へと移行した。公立化後もeラーニング等のデジタル教材は学生が中心とな

ってシステムやコンテンツなどの開発・制作を進めており、それを通じて授業で「ICT活用」ができる教員の養成を行い、学生が地域の初等中等教育の現場と連携する機会を体験することを通じ、人としての総合力向上に努め、年次の低い学生をSA(Student Assistant)として教えることにより、自らも啓発され自ら学ぶ姿勢を高めることを意図した活動を引き続き行い、「自ら成長する教員」の養成という本学教職課程の理念を実現していくものである。

6 教職課程履修学生の指導体制

教職課程を履修している学生の指導体制として、教職課程専任教員並びに教科の専任教員(理科・数学・情報)及び教職課程事務担当からなる「教職連絡協議会」を設けており、カリキュラム編成の検討や年間教職事業・授業運営、そして施設設備に至るまでの内容を審議・検討・実施している。さらに、毎年4年次に実施している「教育実習」が終了した時点で、外部評価として教育委員会等の行政機関担当者や教育実習受入校の担当教員からなる「教育実習協議会」を開催し、次年度への改善に繋げているところである。

7 “教育実習”カリキュラム

(1) 教育実習校に関わる方針

文部科学省は、教育実習校の確保の方針として「地域の教育委員会と連携をしながら、近隣の学校を実習校として確保すべきである」という方針を示しており、この方針を示す理由は、実習先での「客観性ある実習評価」を確保するためであると考えられる。

現状は、毎年中学校数学免許希望者の1～2名が千歳市内の中学校で教育実習受入の許可をもらっているのが実態であり、教員免許取得を目指す学生の「質の確保や向上」のためにできるだけ早急に文部科学省の方針に沿った形で実習校を確保すべく関係機関との連携強化が必要と考えられる。今後も「e-ラーニング」や「公開授業」などの協働研究による連携や、小中学校で行う「長期休業中学習サポート事業」の学生派遣事業などの評価・改善を加えながら連携を密にすることが必要であろう。

(2) 教育実習校・教科

本学では4年次に教育実習を行い、実習先の学校事情により春・秋の時期に実施している。2年次に予備調査を行い、3年次春には教育実習を希望する中学校、高等学校へ依頼の連絡をし、翌年の教育実習受諾の予約をする。これまで平成25年度～30年度に実習校としてお世話になった学校は下記のとおりである。

年度	実習校	教科	実習校	教科
平成25年度	北海道札幌藻岩高等学校	数学	札幌第一高等学校	理科
	北海道釧路湖陵高等学校	理科	北海道札幌英藍高等学校	理科
	北海道穂別高等学校	数学	北海道滝川高等学校	理科
	北海道深川西高等学校	数学	北海学園札幌高等学校	数学
	北海道苫小牧工業高等学校	理科	北海道士別翔雲高等学校	理科
	苫小牧市立啓明中学校	数学	北海道札幌白石高等学校	理科
	北海道札幌白石高等学校	数学		

平成26年度	北海道札幌月寒高等学校	数学	北海道浜頓別高等学校	数学
	帯広大谷高等学校	数学	北海道滝川高等学校	理科
	北海道千歳北陽高等学校	理科	北海道札幌平岸高等学校	理科
	安平町立追分中学校	数学	北海道石狩翔陽高等学校	理科
	室蘭市立東明中学校	数学	札幌日本大学高等学校	数学
	北海道苫小牧南高等学校	理科	滝川市立江部乙中学校	数学
	北海道札幌白石高等学校	数学	札幌市立北栄中学校	数学
	藤女子高等学校	理科	札幌市立八軒中学校	数学
	札幌光星高等学校	理科	札幌北斗高等学校	理科
	札幌第一高等学校	理科	北海道札幌丘珠高等学校	数学
	北海道恵庭北高等学校	数学	帯広市立第八中学校	数学
平成27年度	北海道札幌藻岩高等学校	理科	札幌光星高等学校	数学
	札幌市立北栄中学校	数学	千歳市立勇舞中学校	数学
	北海道札幌稲雲高等学校	数学	北海道恵庭北高等学校	数学
	北海道天塩高等学校	数学		
平成28年度	北海道札幌新川高等学校	情報	北海道鹿追高等学校	理科
	北海道旭川西高等学校	理科	千歳市立勇舞中学校	数学
	北海道苫小牧東高等学校	数学	札幌大谷高等学校	理科
平成29年度	苫小牧市立青翔中学校	数学	北海道釧路明輝高等学校	数学
	北海道函館中部高等学校	数学	北海道教育大学付属釧路中学校	数学
	北海道札幌稲雲高等学校	理科		
平成30年度	北海高等学校	数学	北海道釧路江南高等学校	情報
	北海道釧路明輝高等学校	情報	北海道室蘭清水丘高等学校	数学
	北海道阿寒高等学校	数学	立命館慶祥高等学校	理科
	市立函館高等学校	数学	北海道札幌藻岩高等学校	理科
	千歳市立北斗中学校	理科	札幌市立厚別中学校	数学
	小樽市立北陵中学校	数学	小樽市立向陽中学校	数学

(3) 介護等体験

義務教育の教育職員免許状取得を希望する場合、特別支援学校2日間、社会福祉施設に連続する5日間の計7日間の介護等体験実習が必要であり、平成25年度～30年度の実績は下記のとおりである。

年度	特別支援学校	期間	人数	社会福祉施設
平成25年度	北海道白樺高等養護学校	平成25年11月	3	苫小牧市・千歳市
平成26年度	北海道千歳高等支援学校	平成26年6月、10月	10	札幌市・千歳市・安平町・室蘭市
平成27年度	北海道千歳高等支援学校	平成27年6月、10月	7	札幌市・室蘭市・千歳市
平成28年度	北海道千歳高等支援学校	平成28年6月、8月	5	札幌市・苫小牧市

平成 29 年度	北海道千歳高等支援学校	平成 29 年 6 月、8 月	4	札幌市・苫小牧市・千歳市
平成 30 年度	北海道千歳高等支援学校	平成 30 年 6 月、8 月	10	札幌市・小樽市・千歳市・ 遠軽町・釧路市

(4) 「教育実習協議会」の概要

教育実習協議会は、教育実習受入校、地元教育委員会等との意見交換を行うことを目的として平成25年度から開催している。当協議会では、本学教職課程の実施報告や教育実習を終了した学生のアンケート結果及び教育実習報告を行い、教育実習受入各校からは、教育実習を行った本学学生についての状況報告や本学実習生以外に関する教育実習生の現状等についても報告され、毎年本学教員との活発な意見交換が行われる。

これまで実習校としての受け入れの許可をもらった学校の校長先生に対し、改めて感謝の意を表するものである。

8 教員としての資質向上を目指した特色有る取組

本学は教員養成の理念として「自ら成長する教員」の養成を掲げ実践している。また、とりわけ授業の幅を広げられる「ICT 活用」が出来る教員養成を目指している。併せて、資質向上を目的として「プレ教育実習」も実施している。プレ教育実習の実施内容は次のとおりである。

(1) 学内体験実習(4年生)… 必須

「SA(Student Assistant)実習研修」に 5 日間以上の参加を義務づけ、特に 1 年生の科目である「数学」や「エレクトロニクス入門」等を中心に簡易的な作業から正式な TA と同じ業務を行っている。この実習は教育実習を行う学生全員に課しており、参加する学生の能力に合わせた内容にて実施している。(報告書の提出あり)また、学内体制として、多くの教員の協力の下に実施されている。この研修は、平成 25(2013)年度から開始し、7年目を迎えたが、改善を加えて次年度に繋ぐ計画である。

(2) 学外体験実習(その1) … 必須

千歳市内の小中学校に出向き「学習ボランティア」に参加することにより実施している。本実習は、千歳市教育委員会と本学との連携事業として平成 24(2012)年度冬季休業からスタートした。学生の派遣は、千歳市教育委員会からの依頼に基づき、千歳市内の小中学校合わせて約 15 校へ教職履修学生を派遣している。

- ①長期休業中の学習支援体制を構築するもので、児童生徒にきめ細かい指導を通して学習の躓き解消や学習意欲の向上、学習習慣の形成など「学力向上に資すること」を目的とする。
- ②ボランティア参加学生は、教育委員会主催の「事前研修」を受講する。
- ③長期休業中(2日～5日程度)に、毎日午前中に支援を行う。
- ④派遣学校は市内 27 の小中学校対象ですが、要請学校は平均 15 校程度である。
- ⑤学生は、1 年生の冬季休業から 4 年生の夏季休業までの 6 回にわたり体験することを必須としている。

(3) 学外体験実習(その2) … 希望制

「学校インターンシップ」(3 年生インターンシップに位置付)は希望制となっており、平成 24

(2012)年度から開始した。体験期間は夏季休業中の1~2週間程度で、派遣先は「千歳市内の小中学校」及び高大連携校の「旭川実業高等学校」である。参加学生は、年度により違いはあるが10人程度で、千歳市内の小中学校では、北海道教育大学の学生が教育実習として参加している期間でもあるため、学生も授業実践をさせてもらっており、貴重な体験の機会である。

【派遣実績】

- ①北海道千歳高等学校定時制課程の1・2年生の「数学の学習ボランティア」であり、毎週1回2時間、授業中でプロ教師のサポートとして参加する <派遣実績は年2人>
- ②北海道千歳北陽高等学校1・2年生の「基礎学力補習」に「学習ボランティア」として参加し、年間に4期実施し、各期5回程度「数学」「英語」「理科」の補習に教員の補助として参加する <派遣は各期4人>
- ③千歳市社会福祉課のプログラムの一つとして、4年前から市民の子弟(経済的な理由から塾に通えない中高生)を対象とした「ちとせ学習チャレンジ塾(夜間)」を開設している。この事業に本学の教職課程履修者も登録して、参加可能な日時で協力している <派遣実績は年15人程度>

(4) 学外体験実習<その3> … 希望制

地域の高等学校「学習支援ボランティア」として、高校生の補習授業に教員の補助として参加する事業と千歳市保健福祉部福祉課が実施している事業である「ちとせ学習チャレンジ塾」に学生ボランティアとして参加し、子供たちの学習支援を行う事業を学外体験実習に位置づけ実施している。

(5) 学外体験実習<その4> … 希望制

学校現場の教師に必須である「研究と修養」の実態を学生に体験させる機会として、現場教師が研修している研究会へ参加させている。具体的には、全道各地から手弁当で札幌に集まり研修を行っている「北海道数学研究会」、「北海道高等学校理科研究会」へ教職履修学生3・4年生を派遣している。年1回ではあるが、現場研修を積み重ね(理科は、物理・化学・生物・地学の実験実習)、教員としての資質向上に努めている。

9 終わりに

終わりに、本年4月から新たに歩み始めた公立千歳科学技術大学教職課程は、教員を目指すという目的意識を強く抱く前途有望な入学生を歓迎するものである。これまで築かれた伝統を継承しつつ、新たな大学の歴史を切り拓いてくれることを期待すると共に、教職課程に携わる我々教職員も更なる研究と教育に情熱を傾注しなければならず、今後とも「教職課程履修」を希望する学生に対して、教育課程の編成やその他のプログラム事業などの評価を真摯に検討・改善し続け、学生がその利益を享受できるよう努めることが求められよう。